

群馬県立沼田高等学校（定時制課程）学校評価一覧表②（令和3年度版）（様式2）

羅針盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 特色ある教育活動に積極的に取り組んでいる生徒が75%以上である。	A	A	A	本校の特色ある教育活動にほぼすべての生徒が積極的に取り組んでいると回答した。総合的な探究の時間では、各テーマごとに生徒各自が主体的・積極的に取り組む姿が見られた。学校行事も生徒主体に活発に取り組み、自己有用感を高めることができた。	生徒の学習意欲を高める活動についてはその成果を十分に上げている。客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。コロナ禍の現状の中、積極的に取り組んでいることを評価する。	生徒の学習活動や学習意欲をより一層、活性化させるため、行事や総合的な探究の時間を充実させる。外部講師による講演会や研修会を企画し、社会的視野を広げると共に、多様な価値観や考え方に触れることの重要性を生徒に伝えていきたい。
		② 自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。	A	A	A	自分の学校が好きだと回答した生徒が97%である。コロナ禍の制限があったが、様々な教育活動を通して、主体性や学びに向かう力を育んだ。	「自分の学校が好きだ」と回答した生徒が97%という数値は賞賛に値する。定時制課程で学が苦勞を乗り越え、自信とプライドを身につけて卒業していけるように指導してほしい。	生徒が主体的に諸活動に取り組めるように生徒との対話を大切にして、様々な工夫やアイデアを尊重したい。小さな成功体験や失敗体験を積み重ねて、生きる力を身につけさせたい。
		③ 三修制を利用して、95%以上の生徒が3年間で卒業している。	B	B	B	三修制への理解はほぼ全員が深めている。今年度の3、4年生は全員卒業できる予定なので、来年度は4学年がなくなる。今後も、保護者と連携を図り、全員が3年間で卒業できるように努めたい。	仕事との両立の中、3年間で卒業するには先生方との信頼関係があってこそと思われる。「三修制」の在り方や意義を再検討する時期に来ていると思う。	本校の大きな特徴である三修制については、引き続き理解の徹底を図る。通信科目での単位取得はもちろんだが、本校教育課程においても不振科目が出ないように指導を徹底したい。
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 「授業がわかりやすく、授業によって学力が身についている」と思う生徒が70%以上である。	A	A	A	生徒・保護者ともに8割以上が授業がわかりやすく、学力が身についていると回答した。個別指導や長期休業中補習、ICT積極的活用等が、高評価につながった。	先生方の教え方の工夫・改善が認められ、敬意を表する。補習等により個別指導支援にあたっていることに感謝したい。客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。	今年度実施した各長期休業中補習を引き続き実施し、多様な進路に対応したい。生徒の授業理解度にも差があるので、個別最適化学習への取組を強めたい。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤ 成績不振者は全生徒の5%以下である。	B	B	B	生徒たちの学習態度は概ね良好だが、1学期2名、2学期4名の成績不振者が出た。保護者への協力をいただきながら、個別指導や補習の充実を図りたい。	積極的な「振り返り」や「学び直し」の時間の確保が必要である。成績不振者が少ないことに、地元として感謝したい。客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。	個別指導や補習を通して、生徒一人一人の実態に応じた丁寧な指導を継続する。Chromebookを活用しながら、振り返りや学び直しの時間を確保していきたい。
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑥ 生徒に関する情報交換を週1回以上実施している。	A	A	A	ICTを活用した打ち合わせや職員会議により、情報共有が図れている。また、日頃から、様々な場面で生徒の情報交換をする風土ができており、常に共通理解を持って生徒の指導に当たっている。	情報交換は指導上、大切なことと思います。引き続きの取組を期待する。客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。	GoogleWorkspaceを活用した職員打ち合わせや職員会議を充実させて、ペーパーレス化を推進したい。また、多様な背景を抱える生徒ひとり一人に応じた指導計画、支援計画等も作成し、組織的に対応していきたい。
		⑦ 生徒会活動が充実していると評価する生徒が75%以上である。	B	A	A	生徒会活動には、9割を超える生徒が積極的に取り組んでいると回答した。クラスマッチや生徒総会・研修旅行などの企画・運営に生徒会が主体的に取り組んでいる。	主体的な生徒会活動が実践されている。生徒会活動に関心が多いことは人間関係を作るのに必要である。客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。	生徒会活動については、クラスマッチ、校内発表会等を中心的行事として位置づけ、来年度も生徒会役員と全校生徒による主体性を尊重した指導ができるように、継続的に取り組んでいきたい。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑧ いじめの発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。	B	A	A	1学期に1件のいじめが認知されたが、解消することができた。生徒・保護者の思いに寄り添うことを第一に考え、組織的に対応することができた。	保護者との情報共有が十分に図られている。客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。いじめのない学校生活を望みたい。	日常的に生徒の様子をよく観察し、保護者の声にも耳を傾け、学校と家庭での情報共有を徹底したい。早期発見・早期対応が信頼関係構築には不可欠なので、職員間の壁のないコミュニケーションを心がけたい。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑨ 欠席、遅刻者数は、定時制課程としては極めて低い状態。全生徒数の5%以下である。	B	B	B	欠席率は1学期はやや高い7%であったが、2学期は改善して3.4%であった。トータルでは定時制高校では非常に低い5%未満を維持している。今後も丁寧な保護者との連携を心がけたい。	長期欠席生徒に対してはできる限り早期の対応体制づくりが必要。途中で挫折することなく卒業できるように、温かい言葉かけや支援を続けてほしい。5%未満であることを評価したい。	長期欠席生徒への対応は定時制高校での課題だが、粘り強く保護者や外部関係機関との連携を図りたい。この地域の方々は本校教育に対して非常に協力的であるので、入学者全員が卒業できるように支援をしたい。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑩ 進路通信等を年6回以上発行する。	A	A	A	進路通信「船出」は予定より回数を増やし、毎月発行ができた。また、地域で活躍している社会人の方を招いたキャリア教育講演会2回実施し、生徒のキャリア形成に役立つ講演をいただいた。	「船出」はキャリア形成に大いに役立っている。客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。講演会は生徒の将来に役立つことである。	定時制生徒の入学までの背景は非常に複雑で、多岐にわたっている。組織的・計画的な進路指導を実施し、キャリア形成を後押しするための指導計画を職員間で議論をすすめたい。
		⑪ 家庭での話し合いを促し、生徒の将来の志望について理解している保護者が65%以上である。	A	A	A	生徒から見た保護者の理解度は82%であったが、生徒の進路志望を理解している保護者は96%であった。生徒と保護者間で多少の認識の違いが見られるので、二者面談等を繰り返し、家庭での話し合いを促したい。	家庭との連絡が密である様子がうかがえる。客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。話し合いの大切さを感じる。	三者面談のみならず、家庭への電話連絡等を通して進路に関する家庭内での話し合いと共通理解を促したい。また、進路通信だけでなく、5：30新聞ミニや笑顔の5:30等で進路に関わる情報も発信していきたい。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑫ 好ましい職業観を育成するよう、在学中に就業体験をした生徒が80%以上である。	B	B	B	在学中に何らかの就業体験をしている生徒は76%であり、目標値には達していない。しかし、体調的な面やコロナ禍を考慮すると難しい側面もある。将来の進路について主体的に考えるための進路指導の充実が求められる。	外部関係団体との連携・支援体制の在り方を検討する必要がある。卒業後、社会人となる生徒が多いと考えると在校時から心構えと職種に対する理解が大切である。仕事の経験は必ず、将来に役立つ。	来年度インターンシップ導入を行いたい。アルバイト経験だけでなく、企業の実在意義や自分とのつながりを幅広く体験し、自らの在り方について考えさせたい。そのため地域商工会議所や大学との連携を図り、学びの幅を広げたい。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑬ 学校便り等（5：30新聞及び5：30新聞ミニを含む）を月2回以上発行する。	A	A	A	5：30新聞ミニは毎月、5：30新聞は年2回発行している。また、ほけんだより、進路通信「船出」等を通し、本校定時制教育についての情報提供に努めている。	取組の継続を期待したい。客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。地域社会とのつながりが少ないと感じるがコロナ禍では仕方ないであろう。	来年度は年1回5：30新聞と毎月末の5：30新聞ミニの発行をしたい。また、保護者への一斉メール配信を導入して、配付物の確認や様々な情報発信を積極的に行いたい。
		⑭ ホームページの更新を毎月実施する。	A	A	A	「笑顔の5:30」という本校定時制独自のブログを行事などのたびに更新して、本校の教育活動を外部に向けて積極的に発信している。	取組の継続を期待したい。客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。ブログ等での外部での発信は知らなかった。	今後も定時制のホームページを更新していき、Webを活用した情報発信に努めていきたい。また、ブログ「笑顔の5:30」は外部からも高評価を得ているので、継続していきたい。
		⑮ 保護者面談の他、公開授業を年2回以上行う。	A	A	A	感染症対策を徹底して保護者面談は1回、公開授業は2回実施した。公開授業には、保護者、中学生、利根沼田地区中学校教員の昨年度の2倍以上の計20名の参加があった。	取組の継続を期待したい。公開授業はよい企画である。客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。	保護者面談や公開授業は今後も継続して実施していきたい。また、中学校に本校教育の様子を生徒目線で発信し、情報提供をすすめたい。
Ⅵ 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑯ スタディサブリを1日1回以上利用している。	C	C	C	スタディサブリ利用は差が大きかった。ほぼ毎日利用している生徒がいる反面、全く利用していない生徒も存在する。授業におけるICT利用は非常によく進んでいるので、サブリを活用した授業についても検討したい。	「スタディサブリ」の利活用についての意義について生徒への丁寧な説明が必要と思われる。客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。到達度テストの予算確保を確認してほしい。	ChromebookやGoogle Workspaceを活用して、更なるICT研修や授業研究を積極的に行いたい。また、引き続き対面での個別指導も充実させ、生徒の個別の状況に配慮した指導を進めていきたい。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑰ ICTを活用した通知に、生徒・保護者の80%以上が満足している。	A	A	A	2学期当初の分散登校でのオンライン授業や普段の授業での取組により、ICT活用への満足度は生徒・保護者とも非常に高い数値である。	ICTを活用した「振り返り」や「学び直し」の具体的な方策の検討が必要である。客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。	個別指導や補習を通して、生徒の実態に応じた丁寧な指導を継続する。生徒の進路に応じた振り返りや学び直しの時間を確保していきたい。